

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4571900242		
法人名	社会福祉法人慶明会		
事業所名	グループホームサンメリー		
所在地	宮崎県東諸県郡国富町大字岩知野355-1 (電話) 0985-75-2060		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成22年2月16日	評価確定日	平成22年3月30日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景が広がる中、法人施設の一角にホームがある。玄関を入ると利用者が集まるホールが見え、くつろいだ姿が目に入る。下駄箱の上には苦情箱や行政からのお知らせ、相談窓口を知らせるポスターが掲示してあり、職員や利用者の笑顔で来客を迎える姿や言葉には張りがあった。ホームは利用者の残存能力を発揮できるよう支援が行われている。関連施設には病院があり、利用者は地域の中で穏やかで安心した暮らしが出来る体制が整っている。また、人材育成にも力を入れ、法人内・外の研修には積極的に参加し、レベルアップを図っている。ホーム内は清潔で明るく、職員は笑顔で支援を行っている。

## 【情報提供票より】 (平成22年1月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年4月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤0.7人, 常勤換算6.7人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500~31,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

### (4) 利用者の概要(平成22年1月25日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2	要介護2	3
要介護3	2	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 87.2 歳	最低 79 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	けいめい記念病院、増田病院、藤木病院、しのぎき中央歯科 田中内科クリニック
---------	--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題となった項目の「地域と密着した関係」については職員全員で話し合いホーム独自の理念を作り上げている。また、運営に関する家族等の意見の反映では、家族が気軽に意見を出せる雰囲気作りに留意している。重度化、終末期に向けた方針の共有については、家族からの意志確認書を作成し、家族、職員の共有を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員がそれぞれに自己評価に取り組み、毎日のミーティングや申し送りの中で評価の意義を十分理解し、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内で開かれる認知症対応型共同生活介護連絡協議会が年に4回開催され、サンメリー独自の運営推進会議は年2回の開催となっている。会議には地区代表、民生委員、医師、町職員や地域包括支援センターなどの参加があり、意見交換が行われそこの意見を生かしサービスの質の向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪や家族会において、意見や相談を受け入れやすくしている。また、意見箱の設置や家族アンケートを行い、意見が出しやすい環境作りをしている。今のところ苦情は出していない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の行事などの参加や、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。また、散歩時に畑で作業中の地域住民に気軽に話しかけ、野菜作りや花づくりの話しに興じる等の交流がなされている。地域の区長や民生委員の訪問もあり地域との連携にはホームをあげて取り組んでいる。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、職員全員でホーム独自の理念を作り上げている。職員は笑顔を忘れず、利用者が地域の中で安心して暮らし続けていけるようにとの思いが理念に込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作った理念であり、日々のケアの中で常に理念の精神を心がけ、実践に生かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地区の行事への参加やボランティアの受け入れ等、積極的に行っている。散歩時に畑で作業中の地域の人に気軽に声をかけ、野菜や花づくりの話しに興じることもある。また、時には地域の区長さんや民生委員の訪問もあり、ホームは地域との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を十分理解し、全職員で自己評価を行った。また、外部評価の結果は話し合い、全職員で改善に向けた取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は地区代表、利用者家族、町職員等の参加の下、町内4つのホームとの合同開催を含め、概ね2か月に1回開催している。会議では利用者の状況や活動報告、評価の報告等を行い、そこで挙げられた意見や話し合いを通じ、地域や家族とのさらなる交流等へとつなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の相談や事業所の状況、また、省令の問い合わせ等、電話や直接出向き連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の日々の生活の様子や健康状態等を報告している。金銭管理については定期的に金銭出納簿を確認後、サインをもらっている。また、毎月ホーム便りを発行しており、利用者の暮らしぶりや法人内での出来事を掲載している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会において、苦情や意見を受け入れやすくしている。また、意見箱や家族アンケートを行い、意見が出しやすい環境作りをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者の影響を最小限に抑えるため、近年は行われていない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町内・外の研修や、法人内、関連病院の研修にも積極的に参加している。研修報告を全職員で閲覧し、日々のミーティングの中でも口頭で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や勉強会に参加し、町内の他グループホームと定期的に交流を行い、共にサービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族にホームの見学や体験入居で雰囲気になじんでもらい、本人の納得が得られるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験の豊富な先輩として、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。料理や漬物の漬け方、格言など、職員は利用者からたくさんのことを学び、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者の思いをくみ取る努力をしている。また、家族からの情報提供などで利用者の思いの把握に努め、希望に沿う努力をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者を中心に担当者の意見、家族の要望、毎月のモニタリングやミーティングの情報を取り入れ、利用者がよりよく暮らすための介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しが行われている。体調の変化が生じた場合、そのつど現状に即した新たな介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じている。通院支援や家族の付き添いの下、毎月のお墓参りや外出など、後方からの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医の受診となっている。受診は原則として家族の対応となっているが、家族の都合によっては職員が同伴し、医師からのアドバイスを受けてくることもある。医師との連携も取れており、職員は情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関係者の話し合いの下、重度化や終末期を迎えた場合の指針は打ち出されており、家族の意志確認書も作成され、職員も前向きに努力している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の利用者への言葉かけや、さりげなく接する態度にプライバシーを守ろうとする努力が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日、その時の気持ちを大切に支援している。強制することなく、一人ひとりの希望に沿った支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じて、料理の下ごしらえや配膳、後片づけを職員と一緒にやっている。また、一人ひとりの好みを聞き、時には献立を変えることもある。職員は同じものを食べ、見守りながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望する時間に、毎日入浴できる体制が整っている。また、利用者の羞恥心に対する配慮もされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが経験や、知識を発揮できる場面作りの支援を行っている。また、地域の方の協力により、ハウスのイチゴ狩りに出かけるなど、利用者の気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や、買物、同じ施設の中庭や周りの散策など、利用者の希望に沿った外出をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての鍵はかけられておらず、十分な見守りの体制を心掛けている。それでも不足の状況に備え、玄関にセンサーを取りつけ補っている。職員は鍵をかけることの弊害を理解し、ケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民や消防団の協力を得て、関連施設の合同訓練が定期的に行われている。また、ホーム独自の訓練も年に2回実施されている。訓練マニュアルや連絡網も作成されているが、夜間の勤務体制において、職員の災害に対する不安は大きい。	○	あらゆる災害場面や、夜間に起きる災害に対しても適切に対応し得る訓練を、ホーム独自ですらに行われることを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量共に記録されており、職員は情報を共有している。管理栄養士の献立で栄養のバランスも取れている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は畳のスペースやソファなどあり、ゆったりとしたものになっている。そこから眺める先には季節の花が咲き、光が十分に入る空間になっている。不快な匂いや音は無く、利用者がゆったりとくつろげる場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や縫いぐるみなど、好みの物を持ち込んでいる。全部の部屋に生け花が生けてあり、中にはシンプルな部屋もあるが、個々に合わせた居心地の良い部屋づくりがなされている。		

※  は、重点項目。